



バスカル・マルティン・タイユール「リバース・シティ」

# 第5回 創造農村ワークショップ

in十日町



田島征三「鉢&田島征三・絵本と木の実の美術館」  
Photo by Takenori Miyamoto・Hiromi Seno



ジェームズ・タレル「光の館」  
Photo by Tsutomu Yamada



榎岡彌生「花咲ゆる奏有」  
Photo by Beantou Nakamura

## 芸術祭と地域再生

2015年8月4日[火]-5日[水] 入場無料

8/4 10:00-12:00/ 講演「まちとアートの結びつき」

8/5 10:00-12:30/ パネルディスカッション「芸術祭と地域再生」  
/ 特別講演「地域・アート・内発的」

会場: 当間高原リゾート ベルナティオ(水辺のホール)  
〒949-8556 新潟県十日町市珠川  
越後湯沢駅より送迎バス50分、十日町駅より送迎バス25分

問合せ: ccnj@plus-note.com

申込: <http://ccn-j.net/news/2015/06/workshop-tokamachi-2015.html>



主催

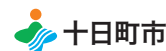


文化庁  
[www.bunka.go.jp](http://www.bunka.go.jp)



創造都市ネットワーク日本  
[ccn-j.net/](http://ccn-j.net/)

共催



十日町市  
[www.city.tokamachi.lg.jp/](http://www.city.tokamachi.lg.jp/)

# 芸術祭と地域再生

講演「まちとアートの結びつき」

8/4(火)

定員100名/無料

10:00～

挨拶

主催者挨拶 文化庁  
開催地挨拶 十日町市長

10:30～

講演「まちとアートの結びつき」

講師

大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ  
総合ディレクター

北川 フラム

横浜美術館館長/  
横浜トリエンナーレ組織委員会委員  
逢坂 恵理子

司会

創造都市ネットワーク日本顧問/  
文化庁文化芸術創造都市振興室長/  
同志社大学特別客員教授

佐々木 雅幸

12:00

閉会

午後 視察 大地の芸術祭 定員40名/有料(2日間3,000円)

8/5(水)

定員100名/無料

10:00～

パネルディスカッション  
「芸術祭と地域再生」

パネリスト

アーツカウンシル東京 プログラムオフィサー  
嘉原 妙

津南町長 上村 憲司

十日町市長 関口 芳史

ファシリテーター

三菱UFJリサーチ&コンサルティング  
芸術・文化政策センター主席研究員/センター長  
太下 義之

11:30～

特別講演「地域・アート・内発的」

講師

学習院大学文学部教授/福島県立博物館館長  
赤坂 憲雄

12:30

閉会

午後 視察 大地の芸術祭 定員40名/有料(2日間3,000円)

特別講演「地域・アート・内発的」

講師

赤坂 憲雄(あかさかのりお)

東京都出身。学習院大学教授。福島県立博物館館長。専門は東北文化論と日本思想史。「東北学」を掲げて、地域学の可能性を問いかけてきたが、東日本大震災を経て、被災地から東北学の第二ステージを探りはじめている。主な著書に、『異人論序説』(ちくま学芸文庫)、『山の手精神史』(小学館ライブラリー)、『東西/南北考』(岩波新書)、『東北学/忘れられた東北』(講談社学術文庫)、『岡本太郎の見た日本』(岩波書店)、『北のはやり歌』(筑摩選書)、『震災考』(藤原書店)、『司馬遼太郎 東北をゆく』(人文書院)ほか多数。

講師



北川 フラム(きたがわ ふらむ)

主なプロデュースとして「アントニオ・ガウディ展」(1978-1979)、「子どものための版画展」(1980-1982)、「アパルトヘイト否(ノン)国際美術展」(1988-1990)など。2000年にスタートした「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」(ふるさとイベント大賞・大賞、オーライ!ニッポン大賞グランプリ他受賞)、「瀬戸内国際芸術祭2010、2013」(海洋立国推進功労者表彰受賞)などの総合ディレクターを務める。



逢坂 恵理子(おおさか えりこ)

学習院大学文学部哲学科卒業 専攻芸術学。国際交流基金、ICA名古屋を経て、1994年より戸水芸術館現代美術センター主任学芸員、1997年より2006年まで同センター芸術監督。2007年より2009年1月まで森美術館 アーティスト・ディレクター。2009年4月より横浜美術館館長に就任。また、1999年第3回アジア・パシフィック・トリエンナーレで日本部門コーディネーター、2001年第49回ヴェニス・ビエンナーレで日本館コミッショナー、ヨコハマトリエンナーレ2011総合ディレクター、横浜トリエンナーレ組織委員会委員長をつとめるなど、多くの現代美術国際展をてかける。

司会



佐々木 雅幸(ささき まさゆき)

金沢大学経済学部教授、立命館大学政策科学部教授、大阪市立大学大学院創造都市研究科教授・同都市研究プラザ所長を経て、2014年4月より同志社大学特別客員教授を務める。主著に、『創造都市の経済学』、『創造都市への挑戦』、編著に『創造農村』など。

パネルディスカッション「芸術祭と地域再生」

パネリスト



嘉原 妙(よしはら たえ)

京都造形芸術大学卒業。大阪市立大学大学院創造都市研究科(都市政策学)修士課程修了。在学中より、企業メセナ協議会インターン、現代アートを中心に展覧会や美術鑑賞教育プログラム、アートプロジェクトの企画運営に携わる。2010年秋よりNPO法人BEPPEU PROJECTにて、地域をフィールドに様々なアートプロジェクトの運営を経験。主な事業に、国東半島アートプロジェクト(2012・2013)、国東半島芸術祭(2014)にて美術・パフォーマンスの作品制作・進行管理や、地元企業や市民と協働したツアープログラムの開発などを担当。2015年4月より公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 プログラムオフィサーを務める。



上村 憲司(かみむら けんじ)

1949年(昭和24年)新潟県津南町生まれ。1971年(昭和46年)日本大学生産工学部卒業。上村建設工業株式会社勤務。(～2010年まで)1987年4月から2007年4月まで新潟県議会議員(5期)。在任中は県議会副議長も歴任。2010年(平成22年)7月から、津南町長(現在2期目)。新潟県県立大学理事。



関口 芳史(せきぐち よしふみ)

東京大学を卒業後、野村証券(株)に入社。その後、十日町市に帰郷して織物会社に就職し、十日町市助役、同県三条市収入役を経て、2009年、十日町市長に就任。「選ばれて住み継がれる十日町市の実現」を目標に掲げ、豊かな里山を生かした芸術祭の開催や田舎経済と地域の活性化など、新たなチャレンジを続けている。

ファシリテーター



太下 義之(おおした よしゆき)

公益社団法人日展理事。公益社団法人企業メセナ協議会監事。公益財団法人静岡県舞台芸術センター(SPAC)評議員。文化審議会文化政策部会委員。東京芸術文化評議会委員。大阪府・大阪市特別参与。沖縄文化活性化・創造発信支援事業(沖縄版アーツカウンシル)評議員。沖縄文化等コンテンツファンド・アドバイザー。鶴岡市食文化創造都市アドバイザー。文化経済学会<日本>理事。文化政策学会理事。コンテンツ学会理事。政策分析ネットワーク共同副代表など、文化政策関連の委員を多数兼務。

## 大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2015

会期：2015年7月26日(日)～9月13日(日) 50日間 / 開催地：越後妻有地域(新潟県十日町市・津南町) 760 km<sup>2</sup>

